

はだしのひろば

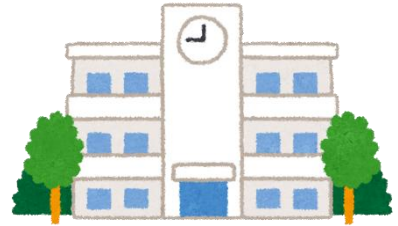
学校だより
加古川市立平岡小学校
校長 木船 和幸

臨時号

令和7年度全国学力学習状況調査

本校の結果についてお知らせします！

(小学校6年生を対象に実施された調査の結果です)



児童の学習状況は、よくできていた点、課題が残る点ともに、全国や加古川市と同じような傾向が見られました。特に、全国や加古川市平均よりも平均正答率が高く、記述式の問題においては、最後まで解答を書ききろうとする意欲が非常に高いことがうかがえ、学習の成果が見られます。生活面においては、自尊心が高く、学校生活を楽しいと感じている児童が9割近くに達するなど、ポジティブな意識が強いことが本校児童の特徴として表れています。また、ICT機器の活用に対する肯定的な認識が非常に高いことも特筆すべき点です。一方で、将来の夢や目標を持つ児童の割合が全国平均よりやや低いことや、困り事を先生に相談できると答える割合が全国平均を下回ること、自分と異なる意見について考えるのを楽しんでいる児童の割合が低いことは、今後の指導における課題です。

国語科

「知識・技能」の平均正答率が高く、兵庫県や全国を上回っています。特に「情報の扱い方に関する事項」において高い正答率を示しており、与えられた情報から必要な情報を読み取る力に優れています。話し合いの中での言葉の効果や相手の意図をくみ取る力、協同的探究学習を通じた話す・聞く力の向上、叙述を基に登場人物の行動や気持ちを捉える力、漢字や仮名の丁寧な書き方などが引き続き強みです。オンライン交流における自分の考えの伝え方を工夫できる点も強みです。記述式問題においても、9割以上の児童が最後まで解答を書こうと努力しており、兵庫県や全国よりも高い意欲が見られます。

一方、「思考力・判断力・表現力等」の平均正答率は兵庫県や全国を下回っており、記述式問題に課題が見られます。具体的には、複数の資料から情報を読み取り、特定の条件に従って文章を作成する問題で正答率が低い傾向があります。物語全体の味わいや象徴的な表現を捉えること、感想や意見を伝え合う中で文章の良さを見出して書くこと、読み取った情報から自分の考えをまとめ文章に表すことなどが課題です。また、敬語を含む言葉の使い方、インタビューの目的意識の明確化、相手の返答から大切な点を捉えることも今後の課題として挙げられます。

今後は、教科書にとどまらず幅広い読書活動の充実、わかりやすい文章の工夫や構造の理解と活用、既習漢字や言語事項の意識的活用、言語活動を通じた表現力の育成、読後の情報整理などに力を入れていきます。

算数科

「知識・技能」の平均正答率が高く、兵庫県や全国を上回っています。基本的な計算問題や計算方法の工夫について高い正答率を維持しており、特に異分母分数の加法計算では9割を超える正答率を示しています。立式の意味を論理的に記述する力、データや表の見方・活用、長方形やひし形、台形や正方形の性質、構成の仕方の理解も得意な点です。記述式問題においても、9割近い児童が最後まで解答を書こうと努力しており、兵庫県や全国よりも高い意欲が見られます。

一方、「思考力・判断力・表現力等」の平均正答率は兵庫県より低いものの、全国平均とは同程度です。概算（切り上げ、切り捨て、四捨五入）を場面に応じて使うこと、割合を活用して2つの数量関係を考えながら解決すること、数値が与えられない場合に底辺や高さや面積の関係から大小を判断することなどが課題です。さらに、論理的に自分の考えを説明する力や、知識・技能を応用して複雑な立体図形を解く力、グラフや表の値を関連付けて活用する力も求められています。特に、立方体に入る球の直径と立方体の一辺が等しいことを捉える難しさや、道のり・速

さ・時間の関係を論理的に説明する力に課題があります。また、仮の数値や抽象的な数量関係を扱う問題で正答率が低い傾向があります。

今後は、基礎学力の充実や場面に応じた算数活用力の育成、生活に根ざした問題を取り上げた協働的学習を進めていきます。さらに、ICT機器やデジタルコンテンツを活用した論理的思考の可視化、仮の数値を当てはめたり数値化したりする指導を充実させます。あわせて、考えの根拠の明確化、他教科への応用、根拠と適切な言葉を使った表現力の育成にも力を入れます。

理科

全体の平均正答率が兵庫県や全国を上回っています。「地球」分野と「生命」分野で高い正答率を示しています。観察や実験で得られた結果を分析し、共通点や相違点に着目して自分の考えや解決方法を見つけること、友達の意見や新しい情報を自分の考えと比較することがよくできています。記述式問題においても、ほぼ全ての児童が最後まで解答を書こうと努力しており、兵庫県や全国より非常に高い意欲が見られます。

一方、「エネルギー」分野の正答率は他の分野に比べて低く、この分野に課題が顕著です。具体的には、実験器具の名称や正しい扱い方を問う問題、水の結露や蒸発といった状態変化の理解を問う問題、電磁石の強さに関する知識の応用などで課題が見られます。既習事項と新しい情報を結び付けて科学的な考えを深めること、科学的な言葉や概念を理解することが引き続き課題です。

今後は、実験器具の有用性と操作の意味の理解を深めること、実験データを重視して考える姿勢の育成、多角的に考える学習習慣の定着、自然体験やデジタルコンテンツの活用を通して科学への興味・関心を育めるよう指導していきます。

質問紙の結果より

基本的な生活習慣では、約8割の児童が毎日朝食を摂り、9割以上が毎日同じ時刻に起床しており、全国平均と同等かそれ以上の水準です。一方、毎日同じ時刻に就寝している児童は約3割程度にとどまり、全国平均よりやや低い傾向が見られました。

自尊感情・社会性・友人関係においては、「自分にはよいところがあると思う」児童が9割を超え、困っている人を助けることに積極的な児童も非常に多く、学校を楽しんでいる児童や友人関係に満足している児童も約9割に達しています。全体的に高い自尊感情と良好な人間関係がうかがえます。しかし、困りごとや不安があるときに先生や学校の大人にいつでも相談できる児童は6割にとどまり、全国平均を大きく下回る点が課題です。また、将来の夢や目標を持つ児童は7割程度、自分と違う意見について考えるのを楽しんでいる児童は約7割で、いずれも全国平均を下回っています。

家庭学習・読書活動については、平日の学習時間が1時間以上の児童は約6割で全国平均をわずかに上回っています。一方、休日に「1時間未満」または「まったくしない」と答えた児童が6割を超え、全国平均より高い割合となっています。読書活動では「全くしない」児童が約3割、「読書が好き」と答えた児童は約半数にとどまり、全国平均を大きく下回る結果でした。このため、本校では今年度から朝学習に「読書タイム」を取り入れ、読書への関心を高めるとともに、読書習慣の定着を目指して取り組みを進めています。

授業・学習スタイルについては、5年生までにICT機器(PC・タブレット等)を週1回以上使用した児童が9割に達し、調べ学習、楽しみながらの学習、画像や動画を活用した理解において高く評価されています。学級での話し合い活動を通じて自分の考えを深めることや、友達と協力して課題解決に取り組むことも約9割と高い水準です。特に「先生が授業やテストで分からないところを分かるまで教えてくれる」と感じる児童が9割に上り、全国平均を大きく上回っています。さらに、国語・算数・理科のすべてで記述式問題に最後まで取り組もうとする児童の割合が全国・県平均を大きく上回り、解答時間についても多くの児童が十分だったと感じています。

一方、ICT機器を活用した自己ペース学習や自分の考えを分かりやすく伝えることについては全国平均より低い傾向が見られます。また、国語・算数・理科の「得意」「好き」と答える児童の割合が全国平均を下回り、特に算数では考え方を説明する活動の頻度が低い点が課題です。今後は、ICT機器を活用した振り返りや個別学習を充実させ、自分の考えを言葉や図で説明する機会を増やしていきます。さらに算数では「考え方を説明し合う活動」を取り入れ、学びの楽しさと達成感を高められるよう指導していきます。